

大腿骨近位部骨折により入院治療中の患者の栄養状態が術後の移動能力や術後深部静脈血栓症などの合併症の発症におよぼす影響についての検討

1. 研究の対象

2021年1月1日から2021年12月31日の間に当院で治療したすべての大腿骨近位部骨折患者さん

2. 研究目的・方法

大腿骨近位部骨折(股関節)の治療のために入院される患者さんの大部分が、入院時には多かれ少なかれ栄養障害の状態にあることがわかっています。骨折の治療では、手術で食事が止まったあとは歩行訓練に向けて十分な栄養摂取が必要になりますが、栄養障害が入院経過とともに改善に向かうのか、障害の状態のままになっているのかわかっていません。また栄養障害の状態がふくらはぎや大腿部などの深部静脈で血液が固まり、血管が詰まってしまう深部静脈血栓症という合併症の発症と関係がある可能性があり、入院経過中の栄養状態の評価は重要です。

今回は大腿骨近位部骨折の治療のために入院された患者さんの血液生化学検査の結果と看護師が記録する検温板の食事摂取量と食種のデータから栄養状態を入院時から退院時まで経時的に評価し、退院時の移動能力や深部静脈血栓症などの合併症の発症との関係について検討します。

研究の対象となる患者さんは2021年1月から12月に当院で治療を受けた大腿骨近位部骨折の患者さんで、病院長に研究が許可された日から電子カルテより情報の収集を行い、2023年3月末日までに終了する予定です。

3. 研究に用いる情報の種類

大腿骨近位部骨折で治療を受けた患者さんの診療記録から次の情報を収集します。

情報: 年齢、性、当院受診日、手術日、転院・退院日、入院時・術翌日・術後1週・術後2週の血液生化学検査データ(Alb、総リンパ球数、Hb)、検温板に記録される主食・副食の摂取量と提供されている食種、術前・術後に施行された下肢血管エコー所見、褥瘡の有無、輸血の有無、地域連携診療計画日常生活機能評価の受傷前と転院時の移動能力評価結果ならびに総合機能評価の日常生活状況(移動と歩行の項目)

患者氏名、患者番号から診療記録を探索しますが、収集したデータからは患者氏名、患者番号を削除して保存・管理します。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒438-8550 磐田市大久保5 1 2 - 3 磐田市立総合病院 整形外科

電話 0538-38-5000

研究責任者 磐田市立総合病院 整形外科 山崎薫